
多面的機能支払 メールマガジン
「農村ふるさと保全通信」 第11号 (2017. 1. 31)

農林水産省農村振興局 多面的機能支払推進室

=====

「農村ふるさと保全通信」のバックナンバー（既刊号）は
http://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai/nouson_furusato_hozen/index.html

よりご覧いただけます。

=====

本年最初の「農村ふるさと保全通信」をお届けします。
今回の活動組織紹介では草刈りの省力化や、耕作放棄地防止の取組を行っている組織等をご紹介します。
県からは多面的機能支払に関するイベントの開催、事務局からは平成29年度予算概算決定の内容等についてをお届けします。

===== 第11号の目次 =====

- 1. 活動組織の活動紹介
 - ☆豊里環境保全水土里会（長野県上田市）☆
 - ☆石垣島第2地区広域協定運営委員会（沖縄県石垣市）☆
 - ☆長野県山形村における取組☆
- 2. 多面的機能支払に関するイベント開催報告
 - ☆多面的機能の維持・発揮活動 第9回みえのつどい☆
 - ☆平成28年度多面的機能支払 中国四国シンポジウム☆
- 3. 平成29年度農村振興関係予算概算決定について
 - (1) 多面的機能支払交付金
 - (2) 農泊推進対策（新規）
- 4. 事例研究会シリーズ～土地改良区との連携（胆沢平野土地改良区）～
- 5. 農村振興局フェイスブックの記事紹介～田んぼのダム？～
 - （お知らせ）
 - （編集後記）

=====

■ 1. 活動組織の活動紹介 ■

☆豊里（ゆたかなさと）環境保全水土里会（長野県上田市）☆

当組織は大河ドラマ真田丸の舞台、上田市の東に位置する田園地帯で活動しています。水に恵まれないところで、古来より吉田堰、吉田池を活用して農地を守ってきました。近くには棚田百選「稲倉の棚田」の輝きも見られます。

当組織は、保全活動実行部隊「緑援隊」を組織して保全活動、直営施工を展開するほか遊休農地の活用を推し進めています。特に耕作者にとって危険で負担の大きい急傾斜の農地法面での草刈等の保全管理支援のため、丸太で足場となる小段の設置に注力しています。推進組織の技術研修で紹介されるなど、普及してきました。耕作者の支援、水田貯留機能向上や国土保全といった多面的機能の発揮が拡がってきました。併せて、条件不利地域への支援充実が望まれます。

夏期には小学生に地域資源の大切さを教える水の勉強会を行っています。50余名が参加、「水」のルーツを巡る楽しい企画をこれからも継続してまいりたいと思います。

豊里環境保全水土里会の概要(長野県農業農村多面的機能発揮促進協議会 HP)

→ <http://www.nagano-nouchimizu.net/wp/wp-content/uploads/2014/07/037.pdf>

「稲倉の棚田」でのイルミネーションイベントについて

→ <https://www.shinshu-dc.net/event/1641.html>

【豊里環境保全水土里会 会長 成澤晴夫】

☆石垣島第2地区広域協定運営委員会（沖縄県石垣市）☆

当組織は、沖縄県最南端に位置する石垣島の水田 214ha、畑 2,785ha を対象に、農業者を構成員として活動しています。亜熱帯気候であることから、草の繁茂が著しく、また亜熱帯特有の集中豪雨から発生する表土流出が排水路を頻繁に覆うため、その維持管理が大きな課題となっていました。そこで農地維持活動に取り組み、農道の草刈り、排水路の泥上げを実施しております。繁茂する草刈りや排水路の泥上げを行った結果、農家の負担軽減に大きな効果を発揮しています。また、農道の視界が良くなったことで交通安全面からも貢献していると評価されています。今後は、事業への関心を高め、農業者以外の皆さんにも事業の主旨を理解して頂けるよう努力したいと考えています。

【石垣島第2地区広域協定運営委員会 大久勝（だいく まさる）】

☆長野県山形村における取組☆

山形村は長野県松本市の南西部に位置し、優良な農用地を有する農業の盛んな地域です。村内には、北部の水田地帯を主とする黒川堰土地改良区と、長野県中信平右岸土地改良区の受益地からなる10の水利組合があります。

本制度が創設された当時、黒川堰土地改良区の理事長が「こんなに良い制度はない」と、改良区の受益者を構成員に「竹田地区水と環境を守る会」をいち早く設立しました。設立から3年を迎え、益々積極的な活動を行っています。

この成果を受け、村全体で取り組もうと、各水利組合の組合長が集まり、平成27年度に設立準備委員会を立ち上げました。

幾度も会議を重ね、組合員に事業の周知を図り、現地確認や同意書の取りまとめなど、準備委員以外の多くの地区役員も協力し、今年度「山形村みどりと環境を守る会」が設立され、村の農振農用地ほぼ全域が、交付金事業の対象となりました。

本制度を活用し、地域の共同活動範囲が拡大したことも大きな効果ですが、組織の設立に向け、各水利組合や地区役員が自ら協力し農地を守ろうという機運が高まったことが大きな成果でした。

今後も、両組織ともに村の農業発展のため取り組んでいきます。

【山形村役場産業振興課 主査 亀野秀洋（かめの ひでよ）】

■ 2. 多面的機能支払に関するイベント開催報告 ■

☆多面的機能の維持・発揮活動 第9回みえのつどい☆

昨年12/17（土）、三重県総合文化センターで「水土里創生します、新たな力とともに！」をテーマに第9回みえのつどいを開催しました。

三重県において多面的機能支払の活動に取り組む活動組織が情報交換や意見交換を行い、農地・水・環境の良好な保全活動により、一層活発に取り組んでいただくことを目的に開催しており、県内外の活動組織等約1,000名の参加がありました。

まずは5組織の優秀活動組織とフォトコンテスト表彰作品の発表、次に「女性の視点での多面的活動」と題して、(有)農業マーケティング研究所長 山本和子氏にご講演いただきました。参加者からは「(農業の)後継ぎに孫をとというのは目からうろこです」等の感想がありました。

その後、4つの分科会を実施し、第1分科会では「女性グループの活躍が支える地域の活性化」をテーマに国立研究開発法人農研機構の遠藤和子氏をコーディネーターとして山本氏と東海管内の活動組織で役員を務める女性4人によるパネルディスカッションが行われました。「女性を含めて地域の課題を考えることが活動の拡がりのきっかけになる」「参加者を一世帯一人とするより女性や子どもも1人とカウントすることで参加世代を増やす」「ツイッター等をうまく使って若者を引き込む」等の意見があり、参加者からは「女性の参加の必要性を痛感した」等の感想がありました。

イベントの詳細はこちら（開催済）

→ <http://www.miedoren.or.jp/home/kyogikai/093/index.html>

【三重県農地・水・環境保全向上対策協議会】

☆平成 28 年度多面的機能支払 中国四国シンポジウム☆

1 /19（木）、「平成 28 年度 多面的機能支払 中国四国シンポジウム in 晴れの国おかやま」を開催しました。

このシンポジウムは、多面的機能支払の活動組織を対象として、活動に対する理解を深めるとともに一層の定着を図るため、平成 21 年度から中国四国地域の各県持ち回りで毎年開催されており、今回は全国各地から 500 名を超える方々にご参加いただきました。

NPO 法人みんなの集落研究所 阿部典子首席研究員から、「地域づくりにチャレンジするリーダーへのメッセージ」と題して、従来の地域活動を、全住民を対象としたアンケート結果を基に持続可能な活動に変え、新たな取組をスタートされた事例についてご講演いただきました。また、広島県の高屋広域協定運営委員会の畝啓一郎（うね けいいちろう）会長から、平成 24 年度から 7 つの集落を広域組織とし 5 年間取り組まれた成果をご講演いただきました。

また、中国四国農政局長最優秀賞を受賞された 2 組織から、都市住民や非農家を含め農村環境保全や交流などの活動に取り組まれた事例発表が行われました。

本シンポジウムを一つの契機として、各地域での活動が益々発展することを期待します。

【岡山県 農林水産部 耕地課】

■ 3 . 平成 29 年度農村振興関係予算概算決定 ■

（1）多面的機能支払交付金

多面的機能支払交付金の平成 29 年度予算概算決定額は、国の予算が厳しいなか、前年度と同額の 483 億円を計上しています。

また、制度の見直しとして、平成 29 年度以降は事務作業の負担軽減を目的に、これまで資源向上支払（長寿命化）とそれ以外で分かれていた経理区分を 1 本化することも可能とし、現場の状況に応じ、より活用しやすい制度としました。その他、本支払の事業計画期間中に田を畑地化した場合、当該期間中においては、農地維持支払の田の交付単価を適用することとしました。

引き続き、地域において多面的機能支払を有効に活用して頂けるよう、取り組んでまいります。

【農林水産省 農地資源課 多面的機能支払推進室】

(2) 農泊推進対策（新規）

増大する訪日外国人旅行者を呼び込み農山漁村の所得向上を図るため、「農泊」（※参照）をビジネスとして実施できる体制の構築、地域に眠っている資源を魅力ある観光コンテンツとして磨き上げる等の取組や古民家を活用した滞在施設・農林漁業体験施設等の整備を一体的に支援するため、農山漁村振興交付金に農泊推進対策を創設しました。

農泊の中核を担う法人の他、将来的に法人となる見込みのある協議会等もソフト対策の支援対象としておりますので、今後本格的に観光に取り組む意欲ある地域の皆様は是非ご活用ください。

公募開始は2月中を予定しています。

詳細は以下よりご参照いただき、ご不明点がございましたらお問い合わせください。

→ <http://www.maff.go.jp/j/budget/attach/pdf/29kettei-25.pdf>

※「農泊」とは、農山漁村において日本ならではの伝統的な生活体験と農村地域の人々との交流を楽しみ、農家民宿、古民家を活用した宿泊施設など、多様な宿泊手段により旅行者にその土地の魅力を味わってもらう農山漁村滞在型旅行を指します。

（問い合わせ先）

農林水産省 農村振興局 都市農村交流課

電話：03-3502-5946

【農林水産省 都市農村交流課】

■ 4. 事例研究会シリーズ～土地改良区との連携（胆沢平野土地改良区）～ ■

昨年11月に開催した事例研究会の発表の中から、活動組織の事務等を支援している岩手県奥州市の「胆沢平野土地改良区」を紹介いたします。

本改良区では、平成14年度に受益内の末端土地改良施設を地域主体で維持管理する体制を整備し、11地区の道水路保護組合を設立しましたが、農地・水・環境保全向上対策の開始を機に、各組合を母体とした活動組織の設立をサポートするとともに、11活動組織の事務を受託することになりました。

受託事務は、各種の資料作成や通帳の管理等の組織運営全般に係る事務だけでなく、施設の補修に係る工事費の算出や補修方法の助言、施設の更新に係る測量・設計・積算・競争入札の開催等、土地改良区の専門性を活かしたサポートを実施しています。これにより、活動組織の事務負担を軽減し、活動に専念しやすい環境づくりに貢献しています。

詳しくは、HPに掲載した胆沢平野土地改良区の発表資料をご覧ください。

発表資料はこちらから（農水省HP）

→ http://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai/jirei_kenkyu_kai/H28.html

【農林水産省 農地資源課 多面的機能支払推進室】

■ 5. 農村振興局フェイスブックの記事紹介～田んぼのダム？～ ■

農林水産省農村振興局公式フェイスブックにおいて、多面的機能支払交付金の取組が紹介されましたので、お知らせいたします。

今回は、防災・減災の取組として各地で行われている田んぼダムに関する記事で、新潟県見附市の「見附市広域協定」を例に取組の概要を紹介しています。

活動の様子が分かる写真や水量調整の方法に関する情報も掲載しておりますので、是非ご覧下さい。

農村振興局フェイスブック

→ <https://www.facebook.com/nouson.maff/posts/1767881790130911>

【農林水産省 農地資源課 多面的機能支払推進室】

■ お知らせ ■

昨年 12/10(金)に開催された「第 8 回ひょうご水土里のふるさとフォーラム」がサンテレビの「キラリ☆けいざい」で 1/15(日)に放送されました。サンテレビ HP (<http://sun-tv.co.jp/kirari/interview>) からご覧いただけます。

【兵庫県 農地整備課】

■ 編集後記 ■

遅ればせながら、明けましておめでとうございます。本年も「農村ふるさと保全通信」をよろしく御願いたします。

さて、本年最初のメールマガジンをお届けいたしました。

今年の目標は、自炊と運動を定期的にする事です！と書くと去年の生活態度がばれてしまいますね・・・。先日引いたおみくじによると、今年は嵐のような年らしいので少々不安ですが、何事も粘り強く取り組みたいと思います。

◆ 「農業競争力強化プログラム」の説明動画を掲載しています ◆

・「農業競争力強化プログラム」(農林水産省ホームページ)

→ http://www.maff.go.jp/j/kanbo/nougyo_kyousou_ryoku/index.html

・特集「農業競争力強化プログラム」(政府広報オンライン)

→ http://www.gov-online.go.jp/tokusyuu/nougyo_kyouka2017/index.html

(外部リンク)

◇メールマガジンの新規登録は次のサイトからお願いします◇

メールマガジンの新規登録・配信変更等はこちらから

→ <http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/>

既に本省及び農政局等で発行しているメールマガジンにご登録されている方は、パスワードが必要です。パスワードの発行はこちらから

→ <http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/re.html>

メールマガジンに関するご意見・ご感想はこちらから

ご自身の所属する活動組織の紹介文（300字程度）を掲載したい方や、取り上げて欲しいテーマがある方のメールもお待ちしております。

→ tamen_ml@maff.go.jp

【発行】

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

農林水産省農村振興局整備部農地資源課

多面的機能支払推進室（担当：秋山）

TEL：03-3502-8111（内線5493）
